

全国学力・学習状況調査結果のお知らせ

晩秋の候、保護者の皆様におかれましては益々御清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に対しまして、特段の御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、4月に3学年で実施された全国学力・学習状況調査の結果から、「本校の概要」を全国平均と比較してお知らせいたします。なお、生徒の個人票は1学期末に配付済みです。(今年度は国語、数学と理科を実施。)

記号の意味(5段階)
△上回っている。
◇やや上回っている。(＋3ポイント以内)
－ほぼ同程度
◆やや下回っている。(－3ポイント以内)
▼下回っている。

1. 学力調査の結果及び課題と改善方法について

(1) 国語

学習指導要領の領域等	本校の概要(全国平均と比較して)
言葉の特徴や使い方に関する事項	◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
話すこと・聞くこと	◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。
書くこと	▼全国平均を下回っている。
読むこと	◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

【課題と改善方法】

- [課題]・自分の伝えたい考えを明確にし、それに沿って段落や文の構成を論理的に展開する力。
・相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する力。
- [改善方法]・文章のテーマを意識させたり、段落の役割を整理したり、いろいろな文章を比べて読みだりする活動の充実。
・話し合いや発表の場で相手の意見を取り入れながら伝え方を考える活動の充実。

(2) 数学

学習指導要領の領域等	本校の概要(全国平均と比較して)
数と式	△全国平均を上回っている。
図形	◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。
関数	▼全国平均を下回っている。
データの活用	◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

【課題と改善方法】

- [課題]・多角形の内角と外角が各頂点で互いに補角の関係であることに対する理解。
・関数の仕組みを活用して、さまざまな事象を数量的にとらえ、論理的に説明や解決ができるかどうか。
- [改善方法]・内角と外角の関係性を多様な角度から捉え直す活動や、図形操作や測定を通じて数学的構造に気づかせる活動の充実。
・身近な事象を題材にした問題解決的な学習や、関数の関係を図や表で整理しながら考察する活動の充実。

(3) 理科

【課題と改善方法】

- [課題]・加熱を伴う実験において、実験器具の適切な操作などの基本的な技能が十分に身につけていないこと。
- ・大地の変化と地層の様子や構成物に関する知識・技能を結び付け、地層の重なり方や広がり方を科学的に推定する力。
- [改善方法]・実験の手順を確認しながら器具の使い方を繰り返し練習する場や、安全に配慮しながら主体的に実験を行う活動の充実。
- ・地層の観察記録や資料をもとに、大地の変化を過去の現象と関連付けて考察する活動や、地層の広がりを図やモデルで表現しながら探究する活動の充実。

※今年度の中学校理科の調査では、IRT(項目反応理論)という国際的な学力調査等でも採用されているテスト理論を用いて、生徒ごとに異なる問題で構成された調査が実施されました。そのため、平均正解率など単純な比較はできず、調査全体から見えてくる課題と改善方法のみを記載しています。

2. 学習状況調査(生徒質問紙)の現状分析及び今後の方針・取組について

【現状分析】

<人間尊重の教育に関わる質問>

- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」という質問に対して肯定的に回答した生徒は、どちらも9割を超えており、全国平均をやや上回っています。
- 「自分にはよいところがあると思う」という質問に対して肯定的に回答した生徒の割合は、全国平均を下回り、昨年度と比べても下がっています。

<学習に関して>

- 「数学の勉強が得意だと思う」「数学の勉強が好きだと思う」と答えた生徒の割合が、全国平均を上回っています。子どもたちが数学に対して前向きな気持ちをもっていることを示しており、日頃の学習の積み重ねが自信や意欲につながっていると考えられます。
- 平日学校以外で1時間以上勉強していると答えた生徒の割合は、全国平均をやや上回っています。
- 「読書は好きですか。」という質問に対する肯定的回答が7割を超え、全国平均を上回っています。
- ICT機器を活用することの有用性についての質問では、肯定的な回答をしている生徒の割合が全国平均と比べると下回っています。
- 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」という質問に肯定的に回答した生徒は、全国平均を下回っています。

【今後の方針・取組】

上述の現状分析を踏まえ、本校では今後以下の取組を推進したいと考えます。

(1) 自己肯定感を育む取組の充実

これまでの取組を基盤として、子どもたちが自分のよさに気づき、自信をもって生活できるように、友達と互いのよいところを認め合う活動や、道徳・学級活動などでの自己理解を深める取組を大切にしていきます。

(2) 話し合い活動の充実と主体的な学びの推進

授業の中で一人ひとりが主体的に考え、意見を交流しながら学びを深められるよう、話し合い活動の内容や進め方を工夫し、学級全体で考えを広げ合う授業づくりを進めます。

(3) ICT活用の意識向上と学習意欲の促進

一人一台端末やデジタル教材を、学びの質の向上につながるよう効果的に活用できるようにします。そのために、教職員もICTの活用目的や意義を共通理解するとともに、子どもたち自身も「なぜ使うのか」「どう役立つのか」を意識できるように取り組みます。